

# 防衛費の 使い方について 説明します。

2023～2027年度で  
必要な  
43.5兆円



## そもそも

国民の命や暮らしを守り抜く上で、  
まず優先されるべきは、外交努力です。  
その上で外交の裏付けとなる防衛力を  
抜本的に強化していきます。

## 安全保障に関する重要なこと

外交重視 憲法などの範囲内で

この資料は国民の皆さまに、2022年12月に策定された防衛3文書についてわかりやすい表現で説明したものになります。詳細は、防衛省のWEBサイト<https://www.mod.go.jp/p/policy/agenda/guideline/index.html>をご覧ください。

## 自衛隊が抱える課題

<p>弾道ミサイル防衛 (BMD) のためのミサイルは <b>60%のみ</b></p> <p>弾薬不足により... <b>十分に能力が 発揮できない...</b></p> <p>例えば...BMD用ミサイルの充足率は60% つまり 100発の弾が必要なのに 60発しか 用意できていない...</p>	<p>装備品があるのに... <b>部品不足</b></p> <p>部品不足により... <b>装備品が 動けないまま...</b></p> <p>例えば... 一般の飛行機や自動車のように 装備品にもメンテナンスが必要 その部品が足りないことで メンテナンスができず動けないままに...</p>	<p>工事が必要な旧耐震基準の自衛隊施設が <b>約9,900棟</b></p> <p>国を守る自衛隊の施設が... <b>防護や耐震の 性能が弱い...</b></p> <p>例えば... 災害に対処する 自衛隊の施設が 地震で崩れるおそれも...</p>	<p>過去10年で応募者が <b>3割減少</b></p> <p>少子化により... <b>人材確保が 難しい...</b></p> <p>例えば... 国防を担う人材を 確保することが 困難となるおそれ...</p>
---	--	---	---

### 国を守るための最低限の活動が、ままたらない現状...

## そもそも自衛隊は 戦闘機や護衛艦などを使って どんな仕事をしてるの？



日本は強いから  
攻めるのは  
やめておこう...  
防衛力を通じて  
「日本を侵略することを  
思いとどまらせる」ことをしている



国民の生命・財産や国の領域を守り抜くための活動  
侵略しようとする敵がいらないか警戒監視など  
怪しい外国の飛行機が近づいてきた時、戦闘機で緊急発進  
国を守るための訓練  
ほか、大規模災害などにも対応している

国際社会には警察のような役割の組織がないため、これらの仕事が必要です。



## 国外の状況 そんな中、安全保障環境は大きく変化。日本は軍事活動を活発化する国と地域の最前線に...

<p>ウクライナが受けている侵略などでは 「新しい戦い方」が使われることに</p> <p><b>大規模な ミサイル攻撃</b> 遠く離れた場所からも、たくさんの ミサイルによる攻撃を受ける可能性も...</p> <p><b>宇宙やサイバー 無人機攻撃</b> 例えば、無人機を活用した攻撃や、 インフラへのサイバー攻撃を受ける可能性も...</p> <p><b>情報戦など ハイブリッド戦</b> SNSなどで偽情報を流し混乱を招く情報戦が... 偽情報に対応するための情報発信なども重要に</p>	<p><b>中国</b> 年々、軍事力の強化を進めている現状 <small>*人数、予算、数は2023年・年度の場合 **日本の場合</small></p> <p>陸上兵力人数* <b>約97万人</b> 日本の陸上自衛隊は 約14万人</p> <p>国防に関する予算* <b>約31兆円**</b> 日本は6.6兆円</p> <p>戦闘機の数* <b>約1,500機</b> 日本は324機</p>	<p><b>北朝鮮</b> 近年、実戦的な訓練発射を 含めミサイル発射事案が 急増している。</p>	<p><b>ロシア</b> ウクライナ侵略を行う一方、 極東地域でも活発な活動を継続。 中国と共同活動も実施。</p>
---	--	--	---



### 厳しい自衛隊の状況



この状況で、厳しく複雑な安全保障環境に対処できるのでしょうか？

本当に国民の命と平和な暮らしを守っていけるのでしょうか...？

## 5年以内に そこで... 防衛力の抜本的強化

国民の命や平和な暮らしを守るために、  
2つの視点で防衛力を抜本的に強化

- ・本来やるべき仕事ができるように
- ・時代の変化にあわせたパワーアップができるように

そのために必要な防衛費を確保する必要があります。

\*これまでの防衛費は国内向け支出の割合が約8-9割を占めており、防衛力の抜本的強化は日本の経済成長にもつながります。



## 持続性や強靱性

**NOT ENOUGH** → **ENOUGH**

BMD用ミサイル\*が必要量の60%...  
\*弾道ミサイル防衛のためのミサイル

BMD用ミサイルが必要量の100%に！

**NOT ENOUGH** → **ENOUGH**

部品不足で動いていない装備品が...

部品不足で動けない装備品をゼロに！

**NOT ENOUGH** → **ENOUGH**

防護性能がある施設20%  
耐震性能がある施設60%

防護性能・耐震性能がある施設100%に！  
\*概ね10年後



5年以内に  
本来やるべき仕事ができるようになります。

## 防衛力の強化 ちゃんと国民を守るように。

5兆円

攻撃されない安全な距離から  
相手部隊に対処する能力を強化  
長射程のミサイルの開発費用など

8兆円

全ての能力を融合させて戦うために必要な  
宇宙・サイバー・陸海空防衛力の能力を強化  
衛星などに関する装備品をかうための費用や、サイバー要員の育成費用など

3兆円

ミサイルなどの多様化・複雑化する  
空からの脅威に対応する能力を強化  
レーダーやミサイル防衛用ミサイルをかうための費用など

1兆円

迅速かつ的確に意思決定を行うため  
指揮統制や情報関連の機能を強化  
AI技術を活用した目標識別機能や、電波情報収集機をかうための費用など

1兆円

無人装備による  
情報収集や戦闘支援の能力を強化  
偵察用の無人機をかうための費用など

2兆円

必要な部隊を迅速に機動・展開するため、  
海上・航空輸送力を強化  
これらの能力を活用し国民保護を実施

時代の変化にあわせたパワーアップができるように

## 防衛生産・技術基盤の強化 1.4兆円 人的基盤強化など・基地対策 6.6兆円

防衛産業は利益が出にくく、企業は日本の防衛に関わるが故にサイバー攻撃を受けています。このまま放っておいて、企業が撤退してしまうと日本の防衛力そのものに大きな打撃も... さらに、将来の戦い方を見すえた装備品の研究開発も必要不可欠です。

その他、防衛力を強化するための施策を行っていきます。例えば、人的基盤の強化についてご紹介します。

- だからやります！
- 防衛省が認定した企業への財政上の措置 など
  - 優れた装備品を創るための研究開発に集中投資



- 人材の育成
- 女性自衛官の活躍支援
- 採用強化
- 予備自衛官の活用
- 生活・勤務環境の改善
- 衛生機能の変革など



まとめ  
必要な防衛費を確保して、ちゃんと仕事ができるように。  
国民の命や暮らしを守り抜きます。



この資料は国民の皆さまに、2022年12月に策定された戦略3次書についてわかりやすい表現で説明したものになります。詳細は、防衛省のWEBサイト <https://www.mod.go.jp/policy/agenda/guideline/index.html> をご覧ください。